

## .NETベースの 64 bit 版 SL-GMS が、日新電機の新しい水処理向け監視制御システム「AQUAMATE-8000」シリーズの開発で採用：

今後の上下水道施設運営を支える AQUAMATE-8000 のグラフィック操作画面 (GUI) が SL-GMS で開発された他、システム専用のカスタムエディタが製造やテスト工程などに適用

2020年7月30日 ニュースリリースより

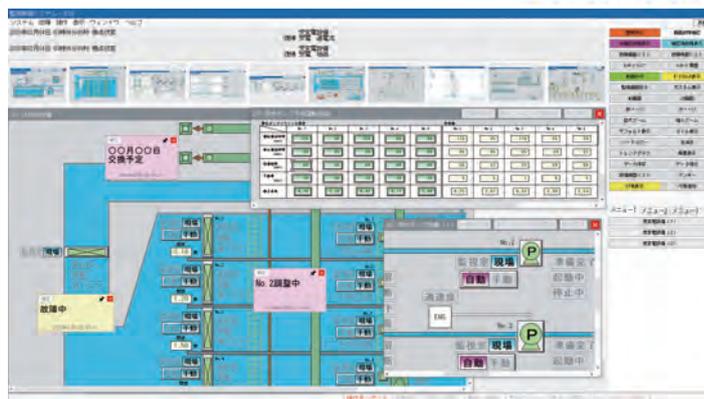
SL ジャパンは、Microsoft .NET ベースの 64 bit 版 SL-GMS が、豊かな社会・産業基盤を支える製品・サービスを国内外グローバルに提供している日新電機株式会社の新しい水処理向け監視制御システム「AQUAMATE-8000」シリーズの開発で採用されていることを、発表しました。

AQUAMATE-8000 は、日新電機が多様化する上下水道施設の運営で柔軟に対応し、今後増大化する設備更新予算の平準化や技術者不足解消を支援するため、監視制御機能をさらに拡張するとともに維持管理機能を搭載した、Web/リモート対応の新シリーズです。

その監視制御を担うグラフィックな操作画面は、SL-GMS Developer for .NET で開発して組込まれています。さらに、SL-GMS Custom Editor for .NET を使って、AQUAMATE-8000 システム専用のカスタムエディタが開発されており、出荷ごとの画面設計、製造、テストそれぞれの工程に適用されています。

☆ニュースリリース全文はこちら: [https://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2020/sl\\_j\\_press\\_200730.shtml](https://www.sl-j.co.jp/newsevents/pressrelease/2020/sl_j_press_200730.shtml)

(事例より) グラフィック系統図:



## HTML5 に対応した監視制御システム向け SL-GMS Web/Developer 新製品をリリース

従来の SL-GMS (C++, Java, .NET) と同じ高対話性かつ高性能な GUI/HMI から、比類なくコンパクトで高速な HTML5 コードを生成して Web でクラウド運用可能に

2020年9月14日 ニュースリリースより

リアルタイムデータのグラフィックな可視化と監視で業界をリードする SL ジャパンは、監視制御システム (DCS/SCADA) 向けダイナミック GUI/HMI ならびに専用のカスタムエディタ開発ツールとして長年の実績を誇る SL-GMS (C++, Java, Microsoft .NET 版) ラインアップに、HTML5 対応版の SL-GMS Web/Developer 新製品をリリースして追加したことを発表しました。

今回リリースした SL-GMS Web/Developer V1.0a 新製品は、従来の SL-GMS 各製品と同じ SL-GMSDraw エディタで作成した監視制御システムのグラフィック操作画面を、HTML5 ならびに JavaScript を使った Web ブラウザでクラウド運用することを目的に開発された新製品です。

しきい値で警報色が変わる、系統図の結線を動かす、機器の入/切など、さまざまな動的属性を持ったグラフィックモデルを対話的に SL-GMSDraw エディタで作成してすぐにその動的振舞いを確認できる監視画面は、SL-GMS Web/Developer のコードジェネレータを使って、比類なくコンパクトで高速な HTML5 コードに生成されます。

これにより、制御室と同じグラフィック監視画面を Web ブラウザでクラウド運用でき、ローカル運用と同等の高い性能で、異種 OS パソコンの他、スマートフォンやタブレットなど幅広い端末からアクセスして操作できます。さらに、複数現場の制御システムからの監視データを集約して一元監視することも可能になります。

☆SL-GMS Web/Developer (HTML5) 新製品ウェブサイト [デモビデオなど]:

[https://www.sl-j.co.jp/products/devtools/sl\\_gms\\_webdev.shtml](https://www.sl-j.co.jp/products/devtools/sl_gms_webdev.shtml)



## 事例で見る、制御システムの可視化における開発・運用動向 ～ 中央制御室からリモートモニタリング、クラウド運用まで ～

去る9月15日・16日にオンラインで開催された第22回ARCジャパンフォーラムにて、SLジャパンの代表取締役社長である羽島 良重が、初日午後の「オートメーションの最新動向、データ活用とCovid-19対策」セッション内で講演しました。

1986年に設立されたARCアドバイザーグループは、産業界および社会基盤に対する調査/提言のリーダー企業で、ビジネスシステムから製品/設備ライフサイクル管理・サプライチェーン管理・操業管理・エネルギー管理・先進オートメーションシステムまで幅広くカバーし、世界中のオートメーションビジネス/ITマネジメントから高く評価されています。

SLジャパンの講演では、「事例で見る、制御システムの可視化における開発・運用動向～中央制御室からリモートモニタリング、クラウド運用まで～」と題し、リリースしたSL-GMS Web/Developer (HTML5) 新製品を初披露しました。

1990年代以降、グラフィックな操作画面を持ち合わせた制御システム(DCS/SCADA)は、UNIXからLinuxやWindowsへ、その開発フレームワークもC/C++からActiveX, Java, Microsoft .NETへと移行してきました。

そして近年では制御システムの64bit化が進み、さらにクラウド運用を目的としたHTML5への需要が高まっています。講演では、プラントにおける運用面コストや要員不足、ニューノーマルにおける対応で最適化が求められる中、中央制御室から遠隔監視、クラウド運用まで、さまざまな制御システムの開発事例から見るその開発と運用動向について、可視化という観点から外部クラウドでリモート運用している画面例(デモ)を交えながら解説しました。

☆第22回ARCジャパンフォーラム2020サイト: <https://www.arcweb.com/arc-japan/arc-industry-forum-tokyo>



講演では、HTML5に変換して外部のクラウドで運用しているグラフィック操作画面の他、実際にSL-GMSDrawエディタで3つのタンク画面を作成してHTML5に変換し、Web運用してAndroid, iPhone, iPadでご覧いただきました。



## RTViewで最新データベース3種のサポート追加

リアルタイムデータの可視化と監視ダッシュボード構築ツールであるRTViewの最新版7.2で、クオリティアシユアランスによる接続テストを経て、最新のPostgreSQL 12, SQL Server 2019, MySQL 8が正式にサポート追加されました。

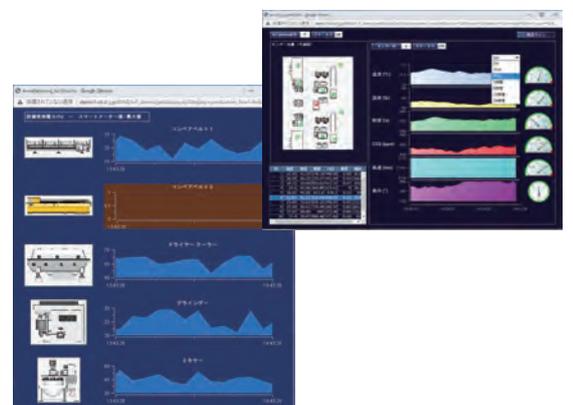
RTViewでは、JDBCに対応した任意のデータベースと接続できるSQLデータアダプタを標準装備で提供しています。ポイント&クリックで簡単操作のビルダーを使って、パレットから作業領域に動的グラフィック部品を選択して監視ダッシュボード画面を構成し、「SQLのデータ付加」ダイアログでデータを指定するだけで接続できます。

そして、グラフやメータ、ゲージ、入力オブジェクト、テーブルなどのさまざまな動的グラフィック部品で構成された監視ダッシュボードは、ビルダーからすぐにデータベースのライブデータに接続してその動的振舞いを確認することが可能です。そして、ビルダーで対話的に定義した監視ダッシュボードの「構成ファイル」は、変更することなくデスクトップまたはRTViewのディスプレイサーバによるシンクライアントWebブラウザで、またクラウドや仮想環境で透過的に運用できます。

これにより、データベースに集約される複数の工場やビル、データセンターなどにおけるさまざまなIoTデータを容易に可視化して一元監視することが可能です。

☆「RTViewによるIoTデータ監視ダッシュボード構築例」デモビデオ(1分33秒):

[https://www.sl-j.co.jp/demovideo/ertv\\_demovideos\\_new.shtml?id=RTV\\_IoT\\_data](https://www.sl-j.co.jp/demovideo/ertv_demovideos_new.shtml?id=RTV_IoT_data)



Real-Time Visibility

年3回発行 2020年9月23日発行 通巻67号



株式会社SLジャパン

〒107-0062 東京都港区南青山3-8-5 アーバンプレム南青山 3階  
Tel. 03-3423-6051 info@sl-j.co.jp www.sl-j.co.jp

◆記載される会社名・製品名は、各社の商標または登録商標です。  
◆記載内容は予告なく変更されることがありますので、ご了承ください。  
◆記載事項の一部または全部の無断転載を禁じます。